「自然災害伝承碑」の代表事例

国土地理院

資料2

洪水
（茨城県常総市）

平成27年（2015）9月10日、関東地方から東北地方にかけて多数の線状降水帯が次々と発生し、鬼怒川で堤防が決壊した。市域の約3分の1が浸水、決壊地点では建物が流失し、浸水が解消するまでに10日間を要した。

洪水
（埼玉県加須市）

昭和22年(1947)9月、関東地方にカスリーン台風が襲い、利根川流域において、死者1,100人、家屋浸水303,160戸、家屋の倒半壊31,381戸の甚大な被害をもたらした。

洪水
（東京都狛江市）

昭和49年（1974）台風16号の影響で多摩川の水位が上昇し、この増水により、二ヶ領宿河原堰の取付部護岸の一部が破壊された。激しい迂回流により高水敷が侵食され、本堤防が決壊し、家屋19棟が流失する被害をもたらした。

洪水
（福井県福井市）

平成16(2004)年7月18日、梅雨前線により明け方から猛烈な雨が降り、春日1丁目付近で足羽川堤防が破堤した。浸水深は石碑の高さまで達し、被害は床上浸水2,514世帯、床下浸水8,673世帯に及んだ。

洪水
（岡山県倉敷市）

明治26年（1893）10月12日13日、台風襲来による大洪水のため、高梁川右岸の秦・富原・下原と川辺の渡し上流50mの神楽土手が決壊。小田川でも坪田・外和崎などが決壊。死者は2百余名と伝えられた。供養塔は、その頭部が当時の水位となるように建立された。

津波
（沖縄県名護市）

昭和35年(1960)5月南米チリでM8.5の地震が起き大津波が発生、津波は太平洋を横断し日本近海を襲った。当地には数回に亘り襲来。津波高5mにも及び大浦橋が全壊、護岸も決壊した。

津波
（和歌山県田辺市）

安政南海地震（1854）と昭和南海地震(1946)による津波災害を忘れないため、津波潮位を刻んでいる。カニのはさみをモチーフしたデザインで、ハサミの先端が当時の津波潮位。

津波
（徳島県牟岐町）

牟岐町は昭和南海地震（1946）では54名が亡くなるなど、安政南海地震(1854)以来の大被害を受けた。瞬時にして荒廃の町と化した痛ましい記録を刻み、後世への教訓とするため建てられた。

津波
（岩手県大槌町）

明治29年(1896)6月15日の夜半に襲ってきた大津波により、瞬間にして600名余りが亡くなり、人家560余戸が奪い去られた。

高潮
（三重県木曽岬町）

昭和34年(1959)9月26日の伊勢湾台風により木曽岬町では300名を越える方が亡くなった。破堤した堤防はその後順次締め切られ、11月9日、この地点を最後に完全に締切が行われた。

「自然災害伝承碑」の代表事例

国土地理院

資料2

地震
（福島県白河市）

東日本大震災(2011)では白河市は震度6強の強い揺れを観測し、ここ葉ノ木平地区では、山の崩落で13人のほか、萱根地区では瓦の落下で1人、大信隈戸では土砂崩れで1人が巻き込まれ、市内合わせて15名が亡くなった。

地震
（新潟県小千谷市）

平成16年(2004)10月23日夕刻に中越大地震が発生し、空前絶後の災禍となった。一瞬にして山容は激変し、農地・道路・水源・電気通信等あらゆる生活基盤が破壊される中、家屋全壊で児童3名の命が奪われた。

地震
（兵庫県神戸市）

平成7年(1995)1月17日に発生した阪神・淡路大震災は6,437名の死者・行方不明者を出した。震災を記憶し、復興の歩みを後世に伝え、犠牲者の慰霊と市民への励まし、大規模災害に対する世界的規模での連帯による復興の意義をアピールする。

地震
（福岡県福岡市）

平成17年（2005）3月20日、福岡市玄界灘を震源とするマグニチュード7.0、震度6弱の地震により、道路が崖崩れなどにより通行止めになり、家屋被害も発生した。

土砂災害
（岐阜県白川町）

昭和43年（1968）8月17日夜半から18日未明に襲った集中豪雨で土石流が発生し、観光バス2台が巻き込まれ飛騨川へ転落、乗客乗員104名が犠牲となった。他にも中濃地方で14名の犠牲者を出した。

土砂災害
（広島県坂町）

明治40年（1907）7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。

火山災害
（長野県王滝村）

平成26年(2014)9月27日、御嶽山が噴火。人知を超えた自然の容赦ない猛威により登山者らが巻き込まれ、58名の尊い命が奪われ、5名の足取り途絶え生還叶わぬ、火山史上希にみる噴火災害となった。

火山災害
（長崎県島原市）

1990年雲仙普賢岳の噴火が始まり1991年6月3日発生した大火砕流により消防団員12名を含む43人の命が奪われた。

火山災害
（鹿児島県鹿児島市）

大正3年(1914)に桜島が噴火した。前日から地震が続き、村民は老人と子供を避難させた。ほとんどの島民はすぐ避難したため死者が20人にとどまった。その後、溶岩が集落を埋め火山灰が田畑を埋めた。

過去を見て次を推測すれば今後を知ることは難しくない。後世の人は万一のことを普段から心にとどめ、安全に慣れることなく変に騒がず、先人が苦労したことに答えを求めてほしい。

土砂災害
（鹿児島県出水市）

平成9年(1997)7月10日午前零時45分頃、未曽有の集中豪雨により美しい丸岡山が崩壊、大量の赤茶色の土石流となって一部は砂防ダムを乗り越え針原集落を襲い21名の尊い命が失われた。